

参加者

秋元、浅田、在原、市ノ川、北島、吉田、小海、  
島崎、田中、中島(郡、誠)、並木、吉川、岡田、  
安田、山下、山岡、遊佐、横田、吉本、  
お見送り-石川

BMW RS Club

# かわらばん

Sep 5, '99

渓流の爽やかな風と瀬音を  
楽しみながら川魚料理を  
満喫した四万温泉での一日  
かわらばん-中島雅樹 摂影-小倉玲子

いや~暑い！それにしてもなんとも暑い夏です。暦の上ではとうに秋になり、時には涼風がたち法師ゼミが鳴いても、未だ夏の後姿が未練たらしく見え隠れしています。そんな中で暑さを避けて2,000メートル程の山に登ってみると、アキノキリンソウやマツムシソウそしてトリカブトやミヤマリンドウが咲き、コケモモ(カルベリー)が黒い実を付けていました。ススキも風になびき入道雲が広がり、本格的な秋はもう其処まで来ている感じです。そんな中で七月に走って以来、久々のツーリングが催行されました。今日の目的地は高原の涼しさを求めて、軽井沢から草津そして四万温泉へと向かいます。

半袖にメッシュのジャンパーを着て走り始めると、少々肌寒い感じがして、軽井沢から山を越えると寒いかなと思いましたが、集合地の「三芳SA」に着く頃には日差しが強まり、またまた今日も暑い日の始まりです。いい加減にしてくれ～。久々のツーリングに早くから仲間が集まり、出発間際に浅田さんが駆け込んで来ました。今日のコースは長いからと、定刻を5分ばかり過ぎて出発。第二集合地「上里SA」迄のセンターライン沿いには、韓国の国花という木槿(ヒゲ)が色とりどりに咲き、心なしか遙か彼方の山々が、幾らか秋の気配に変わりかけているように見えました。

「上里SA」で長老の町田さんと市ノ川さんが加わり計19台。すぐに上信越道「松井田碓氷」へ出発です。天気はまさに快晴で、そんな中でツクツク法師が行く秋を惜しむかのように鳴いていました。こうまでも暑い日々が続くと、秋の来るのが昔の恋人にでも会うように待たれます。

上信越道に入り皆さんがスッ飛ぶ後から付いて行くと、富岡を過ぎた辺りでスピード違反を捕まえるカメラが作動して、メンバーが通る度にピカッ、ピカッと赤いライトが点滅しました。「あんなに飛ばさなければ良いのに～」と思いながら通り過ぎると、私もピカリとやられました。メーターを見ると140キロしか出てなくて、随分とせちがらい処だと思いました。先日の崖崩れの工事費を集めるのに、スピードの上限を下げたに違いないとも思いました。善人から金を取るな！バイクには前にナンバーが無いから良いものの、全員が捕まつたらRSクラブは即刻カイサンということになります。

目の前に岩山の妙義山が聳える「松井田妙義」で高速を降りました。東京から134キロです。国道18号を左に折れ、碓氷峠に向かって走ります。「時間が無いから有料道路へ入ります」という無線が入り、人気の少ない峠道に入りました。上信越道が出来てから此処を通る車が激減して、釜飯の「おぎのや」以外は殆どの店が戸を降ろしていました。車が少なくて道も荒れているのだからタダかと思ったら、料金所の手前から大行列で、一纏めに金を払ってある我々は前に出て、そのまま軽井沢町に入りました。「峰の茶屋」で一休みましたが、少しも涼しくなくて、何か期待外れの思いです。トウモロコシ畑の中を抜け、以前にクラブで度々行ったレストラン「カルフォルニア」の前を通り、更に例の鳥牧場を右手に見ながら草津へ向かいました。「少しは休もうよ」と言う声に草津の「道の駅」で一休みしてから、すぐに先を急ぎました。予約の関係で此処でもユックリとはしていられません。涼しいのか犬も気持ち良さそうにしていました。走るほどに道の両側にコスモスが現れ、サルビアが燃え立つように咲いて、いかにも秋に出会ったようで、何か爽やかな気分です。薄日も差して周囲の山々の緑が目に染み入り心も安らいで、やっと小さな秋を見つけた思いがしました。

アップ、ダウンの暮坂峠を抜け、やがて四万温泉のサインが出て暫く走ると、右手に四万川の流れが見え始めました。土産物屋が連なる中を抜け、狭い通りを奥に入ると、その左手の川に沿って、お目当ての「川魚料理・くれない」の看板がありました。その店のすぐ横に大きな堰(せき)が有り、ザア～という大きな音を立てて奇麗な川が流れています。そのすぐ後ろに有名な旅館「たむら」が見え隠れしていました。ウナギの寝床のような奥に長い店で(川魚料理だから当然かも知れません)、一段高い座敷には大きなガラスがはめられ、外の川を眺め堰から落ちる豪快な音を聞きながらの食事です。

にこやかな女将が最初に運んできたのはカボチャをくりぬき、その中に長い竹串で焼いたヤマメとイワナの熱々。それにかぶりつきながら飲んだ冷たいビールの旨いこと「こりゃ～たまらね～」という声々。花びらのように奇麗に盛り付けた鯉の洗いが続き、トロケそうな豚の角煮鯉コク更に料理が続いてから新香とご飯が出ました。外の客が来ても「貸し切りですので～」と断る女将の態度が、一層この店を好きにしてくれました。



「これで温泉に入れれば最高だね～」と話していたら、女将が「結構です、お風呂にお入り下さい」との事。その上に「女湯もお使い下さい」と言われて大喜びで温泉に浸かりました。暑い中をバイクで走り、旨い物を食べてのフロは実に快適でした。誰も女湯に入らないので、私と田中さんで入りましたが、何か肌合いが違って感じました。いやにツルツルしていました。外に出ると温泉でほてった体に川風と瀬音がとても心地よく感じられ、何か幸を感じました。

食事の始まる少し前に秋元さんが現れました。去年の一泊ツーリングの時に事故に遭って新車を買いましたが、ヤット2,000キロを走ったところで盗難にあってしまったとか。クラブで既に2台が盗難に遭っています。お互いにくれぐれも注意しましょう。古い2本サスの車などは、幾ら金を積んでも製造中止とあっては、なかなか良い物が探せないでしょう。帰途は川沿いに中之条へ下り「渋川伊香保IC」から高速に入り「高坂SA」で解散となりました。400キロを走り無事に6時前に帰り着きました。幹事の吉村さんは都合で参加出来ませんでしたが、素晴らしいお店を見つけて下さり、本当にありがとうございました。彼の代わりに今日の纏め役をして下さった田中さん、時間に追われご苦労様でした。

来月はいよいよ一泊ツーリングで、能登半島和倉の「加賀屋」行きで長い道のりです。十分に体調を整えておいて下さい。